



新成人自らが企画運営 前橋市成人祝

今年の成人祝は、1月8日正午から、ヤマダグリーンドーム前橋で開催。アトラクションや私たちのつどいなどが行われます。

成人祝のプログラム構成や記念品の選定は、市内各中学校の卒業生代表23人からなる企画運営委員が昨年9月から月に2回程度の会議を重ね検討。成人祝当日も企画運営委員が中心となりプログラムが進められます。



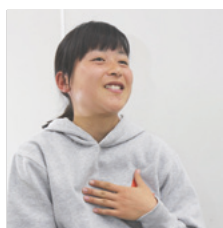
就職コンサルタント 太田 和雄 さん

就職コンサルタントとして、高校・大学でのキャリア教育、新入社員、社会人向けのキャリア形成準備支援事業などを行う。子どもから大人までのキャリア形成をトータルに支援する専門家集団・NPO法人キャリア倶楽部の理事長、ぐんま若者サポートステーションの事業責任者も務めている。

Profile

若者の就職支援に携わる就職コンサルタントの太田和雄さんは、彼らに対し、エールを込めてこう語る。二十歳の今が一番大人扱いされる時。ここでじっくり自分と向き合って、自分の将来を導き出してほしい。新たな一歩を歩む彼らに、前橋はどう応えるか。まちの将来はそこに懸かっている。

若者の就職支援に携わる就職コンサルタントの太田和雄さんは、彼らに対し、エールを込めてこう語る。二十歳の今が一番大人扱いされる時。ここでじっくり自分と向き合って、自分の将来を導き出してほしい。新たな一歩を歩む彼らに、前橋はどう応えるか。まちの将来はそこに懸かっている。



「赤城山は前橋のシンボル。自然豊かでいいですが、駅前や商店街がもう少し元気だといいな」と神辺さん。「前橋と言えば風がすごい(笑)。他に遊び

彼らの目に映るふるさととは
成人を迎えることは、将来を考えるきっかけとなっているよう。彼らの目に、生まれ育った前橋はどう映るのか。意見を聞くと若者らしい答えの中に意外な感想も返ってきた。「赤城山は前橋のシンボル。自然豊かでいいですが、駅前や商店街がもう少し元気だといいな」と神辺さん。「前橋と言えば風がすごい(笑)。他に遊び

に行っても、帰る場所はこちら。前橋に帰ってくるのとほっとします」と高田さん。ユーモラスな表現の裏に、前橋への愛着が垣間見える。前橋を離れて暮らす岡さんは「離れてみて良さに気付いた部分もあります。ふるさとってこういうことかな」とふるさとの存在をかみ締める。齊藤さんは「教師として地元で後輩を育てたい」と、前橋を自分の将来のフィールドと捉える。



二十歳が描く未来と前橋

ふるさとに対しそれぞれの思いを抱く二十歳。そんな彼らに将来前橋で暮らすかどうか、率直に聞いた。「前橋はとても穏やかなところ。でも、住むかどうかは自分のやりたいこと次第」と神辺さん。岡さんも「やりたいことをやるだけだったら、帰ってくると思います。老後は前橋かな」と語る。一方、高田さんは「親戚はみんな前橋だし、地元は安心。きっと住み続ける」。齊藤さんも「住み慣れた場所で自分の子も育てたい」と話す。自分の可能性を試したいという意見と、堅実志向。二十歳の正直な声は私たちの心に素直に響く。

節目迎える新成人が語る

挑む前橋、挑む二十歳

2017年。さまざまな取り組みに挑戦する前橋市で節目を迎える新成人。そんな彼らが思いを語る。

☎ 市政発信課 ☎ 027-898-6642



1月8日(日)開催の成人祝。準備にいそしむ企画運営委員の4人が今回の主役だ。新成人の彼らは、今、そしてこれからに、どんな思いを抱いているのか。今年一年、そして将来の展望などについて思いを聞いた。

二十歳の今思うこと

「さまざまな経験を積んで、ようやくやりたいことのスタートラインに立てた。今年はより積極的に物事に挑戦したい」。



都内の大学に通い、テレビやラジオ関係のバイトもしている岡さん。自分がどこまでできるか試したいと、意気込みを見せる。市内の大学で教師を目指す齊藤さんも「今年は教育実習の年。経験を積み、たくましくなりたい」と、自らの夢の実現のため、着実に歩を進める。

一方、神辺さんは「就職など、将来を考える一年にしたい」。4月に短大から4年制大学へ編入予定の高田さんも「これからが本当のスタート。いろいろな体験を楽しみたい」と語る。可能性の見極めはこれからだ。



成人祝企画運営委員長
神辺和輝さん
(箱田中出身)

同副委員長
齊藤あやさん
(七中出身)

同運営委員
岡浩彰さん
(荒砥中出身)

同副委員長
高田聖夏さん
(鎌倉中出身)